

## テーマ「グローバル世界のなかの日本」

ますますグローバル化する国際経済のなかで日本経済の立ち位置はどう変化しつつあるのか、について、2013 年度は、研究者と実務経験者がそれぞれの見地に立って識見を提供しつつ、受講者との討論を通じて、ワークショップとしての成果をあげる。

## 1 山田雅雄（名古屋市立大学特任教授）「開発援助と BOP 水ビジネス」

海外の水事情とその問題解決の一つとしてビジネスによる開発援助について解説する。特に低所得者に対して基礎的な製品やサービスをビジネスとして提供する BOP（Base Of Pyramid の略、低所得者を指す）ビジネスの特徴とともにビジネス展開の進んだ欧州の水ビジネスについても説明し議論を進める。

講義日程 8月3日（土）Ⅰ、Ⅱ限

## 2 近藤邦治（名古屋市立大学特任教授）「新規事業活動の現状と将来」

国内の景気は、アベノミックスの 3 政策により、好況感を呈し始めているが、少子高齢化社会を迎えた日本で、どのような観点で新規事業を創出すべきかを、中部地域八ヶ岳構造戦略と具体的事例をベースに、受講者との質疑応答を交え講義を展開する。

講義日程 8月10日（土）Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ限

## 3 西村真（名古屋大学国際開発研究科教授）「企業経営とグローバル人材形成」

グローバル資本主義経済は IT 革命、金融革命、グローバル化が同時進行するダイナミズムである。①グローバル資本主義の要諦②自身のアイデンティティ形成③ダイバシティへの対応の順で、企業経営の観点からグローバル人材育成を考察する。

講義日程 8月31日（土）Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ限

## 4 内藤能房（名古屋市立大学名誉教授）「世界経済と日本の貿易・外国投資の変化」

世界経済のグローバル化がますます進展するなかで、我が国の貿易・外国投資構造がどのように変容しているかを統計数字で捉え、日本経済の立ち位置の変化を再確認したい。3回の授業構成は以下のとおりである。1. 世界経済の捉え方、2. 貿易相手国・貿易財構成の変化から見た世界経済の変化、3. 外国投資動向から見た金融経済化の内実。

講義日程 9月7日（土）Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ限

5 塩見治人（名古屋市立大学名誉教授）「グローバル経済と東海地域経済」

東海地域経済を〈外〉から見たらどう見えてくるのか、どう評価できるのか、これが本講義テーマです。大企業ばかりでない、今日では中小企業や地場伝統産業でさえグローバルネットワークの中で生きている。そこに「グローカル」概念の成熟を洞察したい。

講義日程 9月11日（水）VI限、同12日（木）VI限

6 多和田眞（愛知学院大学経済学部教授、元名古屋大学・名古屋市立大学教授）

「東アジアの地域経済提携、TPP 交渉、国際貿易モデル論」

初めに簡単なリカードモデルを用いて自由貿易の意義について説明し、次に戦後の貿易体制が自由貿易の推進を目的として構築されてきたこと、そして現代の世界経済の牽引役となっている東アジアの貿易体制について TPP との関連で論じる。

講義日程 9月14日（土）Ⅲ、Ⅳ限

●履修登録に関する注意 6つのワークショップのうち 4つ以上のワークショップに参加して、それぞれのレポートを提出し、それらの平均点で単位認定をおこないます。レポートは、ワークショップ担当の各講師の指示にしたがって作成してください。レポートの提出は、それぞれのワークショップ終了後2週間以内。提出先は、山の畑第1事務室。

以上 経済学研究科 井上泰夫（ワークショップ2013年度コーディネーター）

ご質問は、[inoue@econ.nagoya-cu.ac.jp](mailto:inoue@econ.nagoya-cu.ac.jp) におねがいします。